ごん吉くんしポート ～南吉よもやま話～

第29回 平和への祈り

新美南吉記念館で開催中の「鈴木靖将絵本原画展～命と愛、そして祈り～」にちなみ、日本画家鈴木靖将と彼が描く南吉童話の世界についてご紹介する連載の最終回です。

昭和19年に生まれた鈴木靖将が画家としての人生を歩み始めた頃、年々激しさを増すベトナム戦争に世界中が抗議の声を上げていました。公害に苦しむ水俣を描くなど、社会派的な作品が多かった靖将は、返還前の沖縄を訪れ、黒人米兵をモデルに絵を描いています。

その靖将が、南吉童話絵本シリーズの第9作に選んだのが、「ひろったらっぱ」です。ラッパを拾った男が、はじめは軍隊のラッパ手になって手柄を立てようとしますが、戦争で畑を荒らされ打ちひしがれている人々を見て考えを変え、ラッパを吹くことで人々を励まし、平和で豊かな村を取り戻す、という物語で、南吉が東京外国語学校の4年生だった昭和10年5月に書かれました。

昭和6年に満州事変があり、翌7年に5・15事件、さらに翌8年にはプロレタリア作家の小林多喜二が警察署で拷問の末に亡くなっています。軍部によるファシズムが台頭し、自由な言論が圧迫される中で、「ひろったらっぱ」のように戦争を否定する童話を書くことは勇気のいることでした。

日中戦争に従軍した父を持ち、戦後の貧しさの中で育った靖将には、「ささやかでも非戦の声を上げ続けたい」という思いがありました。昨年春に絵本ができあがると、すぐに沖縄県で原画展を開催しています。3週間余りの会期中、靖将は毎日会場に詰め、似顔絵を描いたり朗読会を開いたりして、沖縄の人たちとの交流を深めました。

靖将の平和への祈りは、もう1冊の絵本「にひきのかえる」にも込められています。彼は、この童話を、カエルではなく人間の話と捉え、自分の中にもある、どうしようもない愚かな心をさらけ出すつもりで絵を描きました。国家間の戦争も、個人の諍いも、原因を突き詰めていけば、相手を理解しようとしない姿勢に行き着きます。そんな対立の本質を、幼児にもわかる易しさで表現した「にひきのかえる」は、「ひろったらっぱ」と併せて、現代の大人たちにも読んでもらいたい作品といえます。

▲沖縄の原画展会場で「ひろったらっぱ」の原画を見る親子

くらしの足　市民会議

～くらしの足を守るバス路線を一緒に考えつくる場～

市では、市民のみなさんの生活に必要な移動手段「くらしの足」の維持・確保のため、新たな公共交通体系の創設をすすめています。みなさんに「愛され」「親しまれ」、持続可能な「くらしの足」を一緒に考えつくりませんか。

■内容

①半田市の地域公共交通について
　・平成30年10月に予定している実証運行のバス路線について
②地区路線バスについて
③語り合いの場

■申込み・問合わせ　防災交通課　☎84-0626

日にち	時　間	場　所
12月4日（月）	19:00～20:30	成岩公民館
12月5日（火）		乙川公民館
12月6日（水）		板山公民館
12月7日（木）		有脇公民館
12月8日（金）		岩滑区民館

VEGETABLE OIL INK
植物油インキ使用
再生紙使用
印刷　東海通信印刷㈱

編集・発行　半田市企画課　〒475-8666 半田市東洋町二丁目1番地　☎0569-21-3111（代表）　FAX0569-25-2180
毎月1・15日発行（5月・8月・12月は月1回）　http://www.city.handa.lg.jp/　Eメール　kouhou@city.handa.lg.jp

情熱、蔵出し。半田市。